

経済人、各界リーダーの知的好奇心を刺激するビジネス誌

55
創刊55周年

財界

Z A I K A I
a Japanese business biweekly

拡大路線を修正
転換期むかえたイオン

春季特大号

2008 5/13

◎インタビュー
滋賀銀行頭取
高田 紘一

角川グループ
ホールディングス
会長兼CEO
角川 歴彦



「大和証券
世界に繋がる経営を！」
本グループ
社新会長
清田 瞭の

本誌主幹
村田博文

表紙の人
ヤッパ社長
伊藤 正裕
撮影 齊田 勲

平成20年5月13日発行（隔週火曜発売）昭和28年10月3日第三種郵便物認可 第56巻第10号

橋本啓社長



外国人観光客誘致を目的に73年前に開業 往時の雰囲気をもままに改修リニューアル 雲仙観光ホテル

一九三五年をキーワードにスイスシャレー式のホテルが甦る
国立公園第二号の指定を受けた雲仙に、当時の国策であった外国人観光客誘致のため建設・開業したのが(株)堂島ビルヂング(本社・大阪市北区、社長・橋本啓氏)が所有・運営する「雲仙観光ホテル」(石毛芳子総支配人)である。昨年七月中旬、新しくスタルジア雲仙観光ホテルと銘打って改修リニューアルした同ホテルを訪ねた。



「雲仙観光ホテル」外観

島原半島の西側・小浜温泉から国道57号線を島原へ向けて車で二十分ほど登った雲仙温泉の入り口に「雲仙観光ホテル」はある。緑深いカイツカイブキの高い並木の間にスイスシャレー式のホテルの相貌を覗かせ、温泉街の他のホテルや旅館とは明らかに異なる。

霧囲気を異にした七三年の有為転変の歴史を雲仙の山肌に刻んでいる。同ホテルは、一九三二年に政府が外国人観光客誘致策の一環として「上高地帝国ホテル」や「川奈ホテル」など全国十五のホテルとともに、当時の大蔵省預金部の融資を受け建設・開業したホテルの一つである。大阪で堂島ビルヂングを経営し、そのビル内でホテル(堂島ビル)も運営していた橋本社長の曾祖父・喜造氏(長崎県選出の代議士)に運営委託され、一九三五(昭和十)年十月十日にオープンした。ちなみに、早良俊夫氏の設計による同ホテルは、堂島ビルヂングを建設した竹中工務店が設計・施工。同工務店が手掛けた最初のホテルとなった。当時は、上海や香港の租界地から避暑に訪れる海外の賓客で賑わっていたそうです(橋本社長)。その後、戦争の激化により戦時中は日本海軍、戦後は米軍に接収され、一九五〇(昭和二五)年に同社に返還された時は「至る所にベ

ンキなどが塗られ、ひどい状態だった」という。その経営を引き継いだ橋本社長の父の尽力もあって映画「君の名は」の舞台となり、また一九六(昭和三五)年四月には昭和天皇・皇后両陛下も宿泊され、雲仙を代表するホテルとなった。

国が「近代化産業遺産」に認定

二〇〇一年、同ホテル四代目オーナーに就任した橋本社長は、〇三年一月に文化庁から「登録有形文化財」の登録を受け、「一九三五年をキーワードに開業当時のホテルに戻す」ことを決意する。そこで登録有形文化財の条件である外観は変えず、内部客室スペースの拡大や猫足付き浴槽への入替え、ロビーや廊下の改修など、開業当時のレトロな雰囲気を忠実に復元する改修工事を順次進めていった。そして昨年一



ホテル室内

カ月半休館して、円形の温泉施設などを含めた改修を行い、七月十四日にリニューアルオープンしたのだ。「各部屋にはウィリアム・モリスの壁紙を採用し、また当時のアール・デコの時代風潮を表現しました」と(同)と語るように、かつて宿泊した外国人避暑客が満喫したであろうノスタルジックな雰囲気と、チョーナ削りと呼ばれる手斧による山荘風造作がホテル内に横溢している。こうした復元努力が経済産業省にも評価され、昨年十一月には「近代化産業遺産」にも認定されたほどである。「究極のホテルは客船」と語る橋本社長は、今後も開業時に設備化されていたライブラリーやビリヤード室などを施設化し、「当時の避暑客に多かった長期滞在型の宿泊施設として、顧客に利用して頂きたい」と笑顔で締めくくった。